NIE実践報告

1．タイトル：日本や日本人などに対する理解を深める新聞の活用　2 ― 留学生への日本語指導を通して

2．学校名

北海道 北海学園北海商科大学

3．実践者名（代表者名）

山栄　昭二

4．学年

中国、韓国からの留学生(日本語専攻の3,4年生)

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合日本語Ⅰ・Ⅱ　16名

6．単元（本時の学習課題）名

新聞のコラムを読んで日本や日本人などの理解を深めよう。

7．目標(狙い)

新聞のコラムなどを読んで、現代日本語の語彙や表現などを学ぶとともに、現代の日本の状況や日本人の生き方などを的確に把握し理解を深める。

8．評価の視点

①日本語の語彙や表現などを身につけ適切に使用できるか。
③日本や日本人などについての理解が深まったか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞のコラムなどを読もう」　年間60時間のうちの2時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1 「読解文13」の2010年5月10日の「産経抄」(亡くなった、鯛焼き「浪花家総本店」の会長神戸守一の商い)、5月11日の「春秋」(観光立国の名に恥じない受け皿の整備を)、5月12日の「卓上四季」(宮崎県に広がった口蹄疫の早い収束を)を読む。
①コラムを音読する。
②コラムの内容を要約して発表する。
③再度読みながら問題に沿って、漢字の読みや言葉の意味、良く使われる表現の意味と用い方、慣用句、比喩表現など語彙や表現について学ぶ。
④コラムに題名をつけてまとめとする。
留意点
①コラムは留学生の日本語の能力を勘案しながら、興味関心を惹く身近な題材で現代の日本や日本人の姿を理解するのに役立つものを考慮して選択する。
②よく使われる文型や慣用句、ことわざなどを用いた日本語の語彙力や表現力などを高められるものを選ぶ。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

日本語の文全体の把握がなかなかできないとか、比喩表現が理解できないなどの意見が少なくなかった。この授業を通して慣用句やことわざ、外来語など語彙が豊富になり読解力がついた。また、テレビによって感覚的に理解していた事象を文章を通して正確な内容や日本人の考え方などが的確に把握できるようになった。

12．成果と課題

新聞のコラムや記事などを数多く読ませることによって、大意を把握する力や語・慣用句・ことわざなどに対する知識、作文に応用する力などを向上させるとともに、今の日本の事情や日本人の考え方などをより的確に理解させることができた。

今後、新聞のコラムのほかに、他の記事を多角的に取り上げ、現代の日本とそこに生きている日本人の姿をより深く理解させることが大切である。そのため 1分間スピーチなどの場を設定するとともに、現代の日本で問題になっているテーマを取り上げ、各新聞の論調を発表し合い議論する場・機会を設ける必要がある。